

温故知新 昭和40年台に学ぶ【学生編】

昭和40年代は、現代からみれば不便、しかし当時はそんなことさえ感じず、苦労や工夫をかさね日々を送っていた

グループサウンズに夢中！ 勉強にも集中！



憧れのゴールデンカップス(左下がマモル・マヌー)、学生の頃使っていた定期券、昭和44年アポロ月面着陸の新聞

生まれも育ちもずっと阿佐谷北4丁目です。昭和50年代、中杉通りの工事で家は少し移動しましたが、杉並第九小学校を卒業して、桐朋中学・高校に通っていました。昭和42年から48年までの6年間です。

中学の頃、私の毎日はグループサウンズ！（注：主にビートルズに影響を受けた日本のバンドがアイドル的に続々デビューした。）もう、ぞっこんでした。タイガース、スパイダース、ジャガーズ、テンプターズ…そして最高に素敵だったのはゴールデン・カップスのドラマーでボーカル、マモル・マヌー様でした。今でも彼の歌声を聴くとゾクゾクします。朝のテレビ、「ヤング720」という番組を欠かさず観ていました。7時22～3分頃に新曲を出したばかりのグループが演奏するんです。ゴールデン・カップスが出たらもう、テレビに釘付け。その後、あわてて家を出て阿佐ヶ谷駅まで全速力で走る走る。革靴が重くて。それでも中高を通して一度も遅刻せず、皆勤賞だったのは自慢です。高校に入ってから、そもそも音楽の道に進むコースでしたので、そちらの勉強に集中しました。いずれにしても、若い時に自分からやる気が起こった事に対して徹底的にのめりこむことが大切だと思いますね。その結果できなかったことがあっても後悔しません。

その後私はピアノやエレキを弾いたり教えたりする仕事をするのですが、あの頃の熱中癖が上手く活かされたなと思っています。

投稿：藤井典子

(昭和42年～48年・当時12歳～18歳)

一掲載日：2011年10月13日

夢見る時代とビートルズ



宝物だったビートルズのレコードと、スキークラブのワッペン、水泳教室の出席カード

高校生の頃、私の毎日は「スポーツと音楽」でした。バスケットやスキー、その他いろんなスポーツに熱中していましたが、同時に音楽好きだった私はよく友達と集まってギターを弾いて歌ったり、レコード鑑賞をしていました。ビートルズが人気絶頂だった頃で、昭和40年当時阿佐谷パールセンターにあった中央堂とホープ堂楽器店という2軒のレコード屋さんで彼等の新譜をいち早く買い求め、何度も何度も聴いたものです。

昭和41年6月、そのビートルズが来日しました。武道館公演のチケット購入はハガキ抽選でしたが20万枚もの申し込みがあったそうです。そのチケットをなんとクラスの親友が手に入れてしまったのです。学校は「ビートルズのコンサートなど絶対聴きに行つてはならない。」と禁止していましたが、このチャンスを逃す人はいません。彼女は私たちの羨望のままざしを浴びながら出かけて行きました。そうしたら、ビートルズの登場に奇声を上げている彼女の姿がテレビに映ってしまったのです。これは大問題になりました。けれどもこの事件はそれまで控えめだった私に勇気を与えました。「とにかくやりたいことはしよう！」

この後、「成人式用の着物なんかいらなからヨーロッパに行こう。」と、歴史的ロックミュージカル「ヘアー」を見にイギリスへ旅立つ、行動的な私になって行くのです。今にして思うと、世界中の若い人達が、自分のやりたい

ことを追い求めて動いて行くことで、時代も大きく変わって行ったという感じでした。

投稿：岩本幸枝

(昭和41年・当時16歳)

一掲載日：2011年9月15日

居酒屋で人生を学んだ



昭和45年の杉並 上空から(阿佐谷付近)

昭和45年、学生運動が燃えていた頃、大学もロックアウトされ時間だけは充分にあった。高円寺南口の『みなか』(もう閉店、現在は『明神丸』という店になっている)。民芸調で照明も落ち着いた店内、「田酒」、「三千盛」、「菊姫」、「梅錦」、あの頃には珍しく地酒が選べた。「つんこ」(鰯の干物)、「いかの柚庵焼き」、「山椒魚」、「酒盗」、みんな美味しい、ひとつの肴で酒が二合は飲める。ほぼ毎日通った。友人に「用があったら『みなか』へ電話して。2日以内には連絡つくから」。店の電話は勝手に連絡場所にされていた。自分の部屋に電話のない時代、まして携帯電話など。アパートを出たら、貸本屋のそばにある赤電話に10円玉を放り込み実家へ「いまから10分後、いつものとこに電話して」、店へ着き酒を注文した頃に名前を呼ばれ、邪魔にならないよう手短かに済ます。といっても、大体の用件は「カネオクレ」だけなのだから。

マスターがまたいい、今で云うところの脱サラのはしりでいつも温和な笑顔を絶やさない。店がはねてから飲みに出掛けたことも。いろんなことを教えてもらった、杜氏や酵母による味の違いなど日本酒の奥深さ、越前・今庄『ふる里』のおろしそばは卵の濃厚さと相まって絶品だった、もらった犬山焼の徳利は宝物だ。訃報が7年前に届いた。カウンターが懐かしい、隣に座る人がだんだん変わ

温故知新 昭和40年台に学ぶ【学生編】

る。サークル仲間、会社の同僚、彼女(いつか妻に)。ありがとう、高円寺。

投稿：湖山 美樹

(昭和45年・当時22歳)

－掲載日・2011年9月15日－

エレキ、エレキ、エレキ！
寺内タケシに「しびれた」青春



お気に入り
のギター達

僕の昭和40年代はとにかく「エレキ」でした。今でもバンドやってるんですよ。地域のイベントなんかには呼ばれたりしてね。きっかけは、杉森中学3年の卒業間近、各クラスそれぞれにお別れ会のようなことをやっていたんですが、隣のクラスからギター演奏の音が流れてきたんですね。「あれは確かラジオでよく聴くベンチャーズの「ウォーク・ドント・ラン」じゃないか！？それに本物のエレキギターの音だぞ。カッコイイ！！」昭和40年当時、中学生でエレキを持っている人はまだ少なかったですよ。あの日がきっかけでしたね。とりあえず家にあったクラシックギターでレコードに合わせて弾きまわりました。エレキを手に入れてからは、明けても暮れてもずっと弾いてました。阿佐谷周辺にもそういう仲間が増えきてバンドを組んだりしました。正にエレキに夢中でした。でもあれくらい何かに夢中になるっていうのも大切なんじゃないかな。今の中・高生はどうなんだろう？

そのうちに僕の興味は日本のエレキの神様、寺内タケシに移って行きました。ベンチャーズにも全くひけをとらず、日本の民謡まで

何でもアレンジして弾きこなすその上手さとセンス。しびれたな～！チョーキングと言って、弦を押し上げて音に変化をつけるテクニックを、寺内さんはどうやってあんなにスムーズに弾いているのかな？よし、手紙を出して直接聞いてみよう、と。そうしたらお返事でいろいろなテクニックを詳しく教えていただけて大感激しました。

投稿：八巻 幹雄

(昭和40～42年・当時15～17歳)

－掲載日・2011年9月15日－

阿佐谷アイビー・ファッションの先生



当時から大事にしているレジメンタル(縞模様)のネクタイと靴箱

昭和40年に杉森中学を卒業して、新宿区にある高校に通ってました。

当時は学生も「激動期」と共に生きていた感じでした。阿佐ヶ谷駅前でもベトナム反戦の学生集会があったりして、同級生でも参加している人がいました。私はというと、部活(バレーボール)に一生懸命で、まあノンポリ(政治運動に関心が無いこと)でしたね。

部活と同じくらい熱中していたのはファッションでした。その頃から「アイビー・ルック」が流行り始めました。アメリカ東部の大学生をモデルにした、ボタンダウン・シャツやネイビー・ブレザーなど、今のメンズファッションの基本となるスタイルです。日本ではVANというメーカーがアイビーの爆発的ブームを起こしました。VANの紙袋が若者の憧れのアイテムになったほどで、これを抱えて歩くのがまた格

好良くて。学生ではそんなに買えませんから、時々親にもお願いして少しずつ買い揃えていきました。

アイビーにはいろいろとルールのようなものがあり、服の組み合わせや色柄、靴にいたるまで、それこそ「お勉強」が必要でした。阿佐谷ではパールセンターにあるカワムラ洋服店さんがアイビーファッションの発信地で、お店のご主人にはいろいろと教わりました。最近でもあんなに親切に教えてくれるお店のおじさんはいるのでしょうか？地元の個人洋服店も少なくなりましたね。

当時は若者のバイブルだった雑誌「メンズクラブ」にも、街角で取材された私のスナップ写真が載って、カワムラさんのおかげで仲間に自慢できました。

投稿：菅井 千秋

(昭和40年～43年・当時15～18歳)

－掲載日・2011年9月15日－

DATA

取材：区民投稿

撮影：区民投稿

掲載日：2011年09月15日